

後援会ニュース「しおかぜ」は街づくりのコミュニティ紙として皆さんの暖かいご支援をお願いします。ご意見をお聞かせください。



しおかぜ

日本共産党浦安市東部後援会
News

第82号

2021年10月1日
編集責任者 元木計文
047-355-8526
部内資料

「いのちを守る」新しい政権をつくる選挙 《 市民連合と4野党が野党共通政策で合意！ 》

この2年間、自公政権は無為無策、後手後手の新型コロナウイルス感染症対応や東京五輪の強行などによって、感染爆発と医療崩壊という深刻な事態を招きました。菅首相は、憲法で定められている臨時国会の開催要求を無視して開くことなく政権を投げ出し、自民党はコロナ対策そっちのけで総選挙に明け暮れました。こんな政権に国民に命運を任せるわけにはいきません。こんどの総選挙はコロナ禍で明らかになった様々な日本社会の問題点を変えていく、新しい日本をつくる歴史的な選挙になります。

9月8日に、市民連合と日本共産党、立憲民主党、社民党、れいわの4野党が、総選挙における野党共通政策で合意しました。日本共産党は、来るべき総選挙で市民と野党共闘の勝利と日本共産党の躍進で政権交代を目指します。みなさん「比例は日本共産党」「千葉5区は浅野ふみ子」とご支持をさらに広げて下さい。



【4野党党首、9月9日版しんぶん赤旗より】



■■ 野党連合政権で政治を変える！ ■■



いよいよ総選挙まで2か月をきりました。オリンピックを開催すれば、感染爆発するという指摘を無視し開催を強行。医療崩壊をまねき国民の命が奪われています。

日本共産党は、国民の命を守るために最善を尽くし、思い切った財政出動をすべきだと求めてきました。子どもや病気などでワクチンが打てない人を守るためにも、検査キットを無料で配布するなど、検査の拡充はまったなしです。

「命を守る」一番大事なことに真剣に向き合わない政治家は一扫したい！今度の総選挙で政権交代させましょう。

酒類の取引中止の方針が出た時「秋の総選挙では、自民党と公明党以外に投票します」というポスターが拡散され、その数日後方針は撤回されました。声をあげれば変えられる！菅政権への一番の痛打は、日本共産党への一票です。比例代表で「日本共産党」と書いていただく方をぜひ広げてください。志位和夫委員長と共に、私、さいとう和子の議席奪還には、前回の2倍の得票が必要です。ぜひ力をかけてください。一緒に野党連合政権を実現し、政治を変えましょう。

衆院比例予定候補 さいとう和子

【 野党共通政策（骨子）】

1. 憲法に基づく政治の回復。
2. 科学的知見に基づく新型コロナウイルス対策の強化。
3. 格差と貧困を是正する。
4. 地球環境を守るエネルギー転換と地域分散型経済システムへの移行。
5. ジェンダー視点に基づいた自由で公平な社会の実現。
6. 権力の私物化を許さず、公平で透明な行政を実現する。

● 「なによりいのち」日本共産党街頭宣伝 ●

【 衆院千葉5区予定候補 浅野ふみ子 】

浦安市内3ヶ所で街頭宣伝を行います。応援して下さい。

■ 10月9日(土) ■

1. 午後1時30分～2時
【 東西線浦安駅前ロータリー 】
2. 午後2時15分～2時45分
【 東野オーケー前交差点 】
3. 午後3時～3時30分
【 新浦安駅前広場 】



『なにより いのち』

村上 ますえ

自宅療養中の妊婦 自宅で出産
 新生児は死亡
 ニュースに衝撃が走る

自宅療養中の五十代男性の遺体発見
 七時間も走り回った救急車
 病院はパンク 自宅療養を
 危機感が襲う 情報
 この国はどうなってるの

『国民の命を守る』
 器械的に繰り返していたのは
 やはり 壊れたレコーダーだったの？

コロナがあばいた政治の貧困
 脱出の合ことばは

『なにより いのち』

だれもが受けられる医療の充実を

だれもが生業を続け

なりわい

くらしを支えられる制度を
 ねがいを選挙に託して

『なにより いのち』と

いま 私はピラを配っている



私の故郷自慢

No.14

＜ 私の故郷 鹿児島 ＞

元木美奈子



私は小学2年生まで鹿児島県川辺郡知覧町、その後、大学卒業まで父の郷里である香川県木田郡西植田町（高松市）で過ごした。鹿児島は母の郷里であり、祖母との思い出や家の周りの

景色などぼんやりとした記憶が生活の節々でよみがえり、時間が取れば母と郷里を訪ね歩き、思い出の地にゆっくりと身をゆだねたいと思ってきた。しかし、母は年を重ね、私のささやかな願いはかなっていない。

父がなぜ戦後間もない混乱期に讃岐から遠く離れた鹿児島まで行ったのか、父や母から直接、詳しい話を聞いたことがない。聞いておけばよかったと今頃になって後悔している。



父は小さなお寺〈庵〉の長男として生まれ、父の祖父が布教活動で鹿児島に孫である父を同伴したのだと叔母から最近聞かされた。

薩摩では明治元年から廃仏毀釈が行われる。

それは徹底的なもので寺という寺が破壊されたという。仏教空白地域とでも言うべき状態となった旧薩摩藩

地域において、浄土真宗は猛烈な布教を行い、結果、鹿児島県は、かえって浄土真宗一色になったということだ。著しく勢力の後退した浄土真宗再興のために曾祖父が派遣されたのだ。曾祖父は私が生まれた年に亡くなっている。どんな人であったのか、今となってはまったくわからない。父は薩摩に残り、母と出会い、家族を伴い種子島、甕島（こしきじま）

などにも布教して回ったようだ。漁船が島の港に着くたびに籠を下げて魚をいただくために妹の手を引きながら砂浜を歩いている記憶は、私のふるさと自慢の一つである。



知事に要請「浦安市に千葉県直営の保健所の設置を」



千葉県の日本共産党は7月21日、保健所体制の強化を、熊谷俊人知事に求めました。浅野

ふみ子衆院千葉5区予定候補、みわ由美県議と、みせ麻里浦安市議、松戸、流山の市議、市民らに参加しました。

みせ麻里市議は、「浦安市の人口はディズニーランドの入園者を含めれば20万人を超える。感染拡大が非常に心配だ。市川保健所は、49名の正規職員（+臨任4名）で市川市と浦安市合わせて66万人以上もの市民を担当している。市民は、身近な保健所での丁寧な対応を切望している。ぜひ県直営の保健所を浦安市に設置してほしい」と訴えました。

実際に松戸保健所で派遣として働いたという元保健師の方は「実際に見てほしい。保健所の職員は、コロナ対応で土日も昼も夜もないすさまじい働き方をしている。また、市川保健所には検査課がなく、PCR 検査もできない。専門的、科学的、多角的な機能が果たせない。致命的だ」と実態を指摘。

浦安から参加した市民も、保健師の大幅増員と検査課の拡充を求めました。これに対し、県健康福祉政策課は「県民ニーズに的確に応えていく」としながらも「現状の体制を強化して対応していく」としか回答しませんでした。つまり、「臨時雇用や応援職員で対応していく。保健所の増設や抜本的な改善は考えていない」（今年度、市川保健所は臨任4名の増員）ということです。残念ながら、県民の命を守る姿勢には立って来ていません。



コロナは、次々に新種株が出てきていますし、まだまだ収まりそうもありません。また、今後も新しい感染症が出てくるでしょう。保健所の役割は重要です。今後も保健所の増設、保健師など正規職員の増員などを県に要求していきたいと思えます。署名活動も行っています。ご協力をお願いします。